



ロシアNIS経済研究所 次長 ■ 服部倫卓

講義 6 時限目 海外編

緊迫のウクライナ プーチンはどう出る？



摩擦も発生していたところに、今回の革命が起きました。

日本では「ヤヌコビッチ前大統領は親ロシア政権だった」と報道されていますが、それは一面的です。昨年11月にロシアにすり寄る格好になりましたが、債務利払いに支障が生じるので、やむなくEU（欧州連合）との協定を棚上げしたのが真相です。

ヤヌコビッチ前政権時代も含め、ウクライナ外交の戦略的な基軸は、終始一貫してEUとの統合にありました。ただ、革命のほとぼりが冷めると、ロシアとの関係改善も必要に

なってくると思います。ロシアと共存しないとウクライナは生きていけないのも現実なのです。

今度首相に就いたヤツェニユク氏は非常にスマートでバランス感覚もあり、ロシアとの協力に含みを残すような、穏当な発言を繰り返しています。日本で有名なティモシエンコ氏は、大衆迎合的にロシアに対して過激なことを言っただけで、かえって事態を混乱させてしまいました。政治の混乱や官僚の汚職・腐敗はウクライナのお家芸ともいえますが、ヤツェニユク氏のような安定感のある人が主導権を握り、ロシアとの関係を直視すれば、国難打開の糸口が見えてくるかもしれません。

プーチンに敗北感漂う クリミアは交渉カード狙い

ロシアのプーチン大統領にとって、今回の事態は敗北感があると思えますね。ロシアとEUのどちらを取るかと問われ、ウクライナ国民はEUを選んだわけですから。

ロシアにとって今回の事態は、九州が突然日本から離れていくようなイメージなのです。経済的な利害も大きい。ロシア、カザフスタンとベラルーシの3カ国で経済統合の枠組みづくり（関税同盟）が進んでいますが、これにウクライナが加わる

と、GDP（国内総生産）はバルト三国を除く旧ソ連の92%に相当し、ほぼ旧ソ連が復活した格好になります。

ただ、ウクライナで親ロシア政権が誕生することはもはや期待薄とプーチン大統領自身もわかっているはず。今後どう影響力を行使していくか。既成事実づくりに躍起ですが、打てる手はクリミアしかない。

ロシアにとって怖いのは、ウクライナのEU加盟だけではありません。NATO（北大西洋条約機構）加盟となると、さらに悪夢です。自然の流れとして、ウクライナのNATO加盟が議論になってくる可能性があります。ロシアとしては、ウクライナの実効支配の及ばない地域をクリミア半島に確保しておき、今後の交渉カードに使う狙いがあると思えます。

5月の大統領選ではヤツェニユク首相と異なる党派の候補が選ばれ、ねじれが生じるかもしれません。ウクライナ政治の混乱が収束するには、もう少し時間がかかりそうです。

今回の革命が起きる直前まで、ウクライナ経済はマイナス成長が続いていました。原因の一つは、ロシアから輸入する天然ガスの

価格が高騰したことです。ウクライナの基幹産業は鉄鋼業なのですが、天然ガスを使うのでガス価格の高騰がボディーブローのように効いて、経常収支は赤字続き。ロシアとの通商